1 題材名 集まってへんしーん

2 単元目標

○身の回りにあるものの形や色を工夫して、一緒にいると楽しくなるような仲間をつくる。

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
身の回りにある材料を使って、楽しい仲間をつくることを楽しんでいる。	つくりながら材料の組み合わせや形を変えるなどの工夫をして、発想を広げている。	材料の形や色を生かし、組み合わせ方や接着の方法を工夫している。	友だちの発想や作品のよさを見つけている。

3 単元構想

題材の目標

身の回りにある材料の形や色から発想を広げ、形を変えたり組み合わせたりして、楽しい仲間をつくる。

- ・この形おもしろいな。・この色きれいだな。・この前の残った材料を使えるかな？
- ・もしかしたらこんなものでも使えるかな？
- ・この形おもしろいから持っていこう。・この入れ物キレイだから持っていこう。

事前にいろいろな材料を集めておくよう連絡しておく。

これをどんなふうにするんだろう？

みんなが持ってきたものを見せ合って、その形や色、動かしたときの様子を話し合おう

ペットボトル	箱	カップ
<ul style="list-style-type: none"> ・中にいろいろなものが入られるね。 ・光に透かしてみたらキレイだったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさがたくさんあるね。 ・動かしてみたら口みたいに見えるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん重ねられるよ。 ・透明のものと白っぽいものがあるんだね。

- ・この箱はパクパクするから顔にしよう。
- ・これは細長いから腕にしよう。
- ・キャップは目に使ってみるか。

この材料で何をつくらうかな？

材料をつぶしたり、切ったりして形を変えてもよいことを知らせる。平面でなく、立体作品をつくることを知らせる。

自分の表したいものをつくらう！！

- ・頭を重くしたらうまく立たないな。
- ・野球のバットをつくって持たせよう。
- ・腕や足を曲げると動いているみたいだ。
- ・ペットボトルが切りにくいな。
- ・上手くくっつかないぞ。

どうしたらもっと楽に切れるだろう？
もっとしっかりくっつけたい！

グループの中で解決できたのなら、最後に全体に広げる。困っている子がいたときは全体で話し合う。

- ・きりで穴を開けてから切ったら楽だよ。・ホットボンドならくっつくかも！
- ・のりじゃなくてボンドを使ってみたらどうかな？
- ・輪ゴムとかひもで結んだら丈夫だよ。

材料によって、切断や接着・接合の方法が違うことを指導し、加工の際の安全面に十分配慮する。

・ペットボトルを使って、強そうなロボットをつくったよ。・箱とカップを組み合わせて怪獣にしたよ。

作品を見せ合おう

- ・〇〇さんのは内側が光ってキレイだね。・腕とか足が動いてるみたいだね。・物を持たせると何をしているのかよくわかるね。
- ・もっとたくさんの人に見てほしいな。・家に持って帰って見せたいな。大事に飾っておきたいな。

子どものおもいに沿って
展示したり、感想をもら
ったりする。

4 切実な問題について

本単元での児童の切実な問題は「どうやったら上手に切れるか」「どうしたら丈夫にくっつくか」だと考えられる。自分のつくりたいという思いをもとに「こんなものをつくりたい」、「こう切りたい」、「あそこにくっつけたい」という児童それぞれが持つ願いを実現するためにも、「上手な切り方やくっつけ方」は児童の切実な問題になると考えられる。

5 ひびき合いについて

本単元では、切り方やつけ方について話し合う場面とお互いの作品を見せ合う場面でひびき合いが見られると考える。切れない、つかないなど同じ悩みを持つ児童同士で話し合う中で「こんなふうにしたらどう」など様々な方法を考えていく。友だちの作品を見て、「こんな方法もあったのか」「この工夫は自分の作品でも活かそうだな」など、友だちの作品から新しい発見をしたり、自分の作品に活かそうとする姿をひびき合いと考える。

6 本時案（別紙）

7 実践を終えて

（1）単元構想について

今回の題材までの活動で、困った時はすぐ教師に助言を求めるという姿勢が子どもたちに定着していた。今回の題材では、困ったらまず、グループ（4人掛けの机）内で相談し自分たちの力で「切れない・つかない」といった問題を解決していった欲しいという思いから、構想をする際のポイントにしてきた。ペットボトルや段ボールなど接着や切断が難しい材料を使う中でより簡単な切断方法を話し合ったり、友だちのアドバイスから自分の発想を広げている様子を実見することができた。しかし、自分の作業をしている中で一度手を止めて助言することに煩わしさを感じている様子も見えた。また、教師に助言を求めた方が早いという結論から教師に助言を求める児童もいた。今回のように児童間で話し合いながら進めるためには、長いスパンで段階を踏みながら定着させていかなければならないという反省が残った。

（2）成果と課題

グループ内での話し合いの中で新たな発想や友だちの工夫を取り入れて自分の作品に活かすことができていた。また、自分の作品や発想を相手に伝えることで自分の思いに自信を持っていた。

活動をする際に、切断エリア、接着エリア、材料エリアなど作業ごとに場所を限定することで必然的に同じ作業をする子が集まり、「共通の問題」を持つことでより深い話し合いができるよう工夫するなど、子どもたちに「共通の問題」を持たせるための工夫が課題として残った。